

北海道における「令和元年産春植えばれいしょの作付面積、収穫量及び出荷量」について

この資料は、農林水産省（本省）が公表した「令和元年産野菜生産出荷統計」のうち、北海道に関連するデータの概要をまとめたものである。

調査結果の概要

- 作付面積は4万9,600haで、前年産に比べ1,200ha（2%）減少した。
これは、小麦や小豆に転換されたこと等による。
- 10a当たり収量は3,810kgで、前年産を11%上回った。
これは、生育期間全般において天候に恵まれ、いもの肥大が良好であったためである。
- 収穫量は189万t、出荷量は169万7,000tで、前年産に比べそれぞれ14万8,000t（8%）、14万t（9%）増加した。

北海道における作付面積、10a当たり収量及び収穫量の推移

作付面積は、調査を開始した昭和22年以降、初めて5万haを下回った。

図1 春植えばれいしょの作付面積の推移

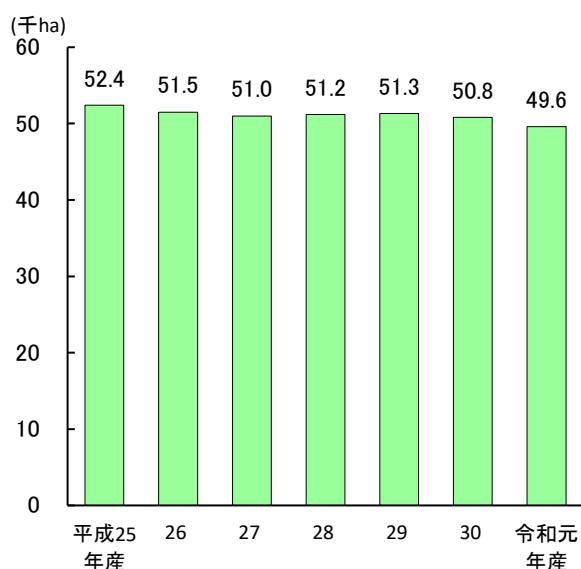
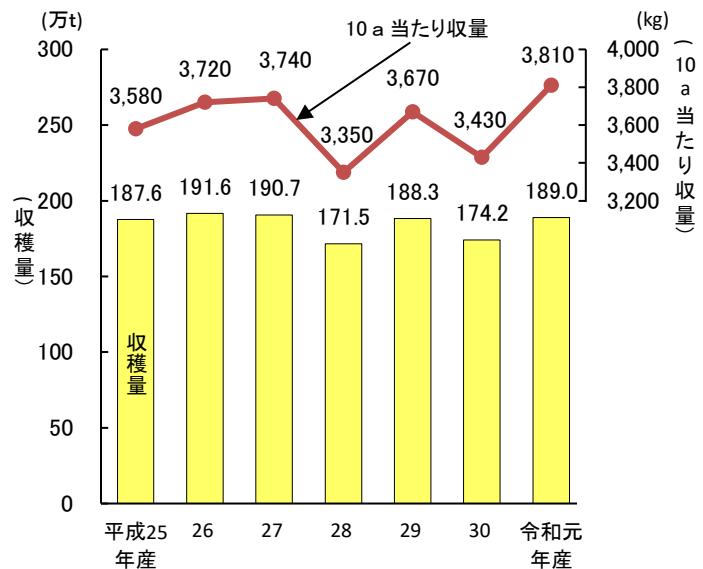


図2 春植えばれいしょの10a当たり収量及び収穫量の推移



春植えばれいしょの作付面積、収穫量等の都府県との比較

全国に占める北海道の割合は、作付面積が69%、収穫量が80%である。また、10a当たり収量は、でん粉向け品種の作付けが多いことから、都府県に比べ1.8倍と高くなっている。

図3 作付面積

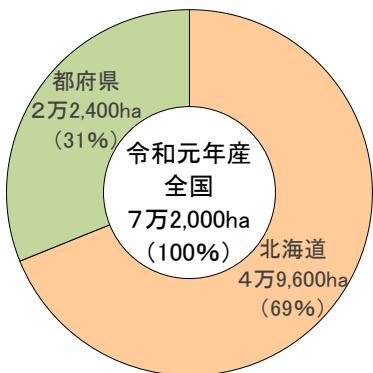


図4 収穫量

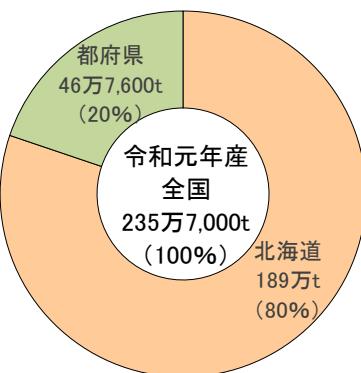
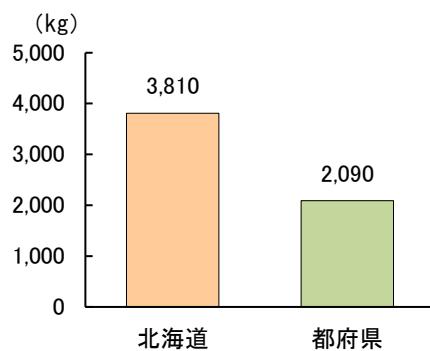


図5 10a当たり収量(令和元年産)

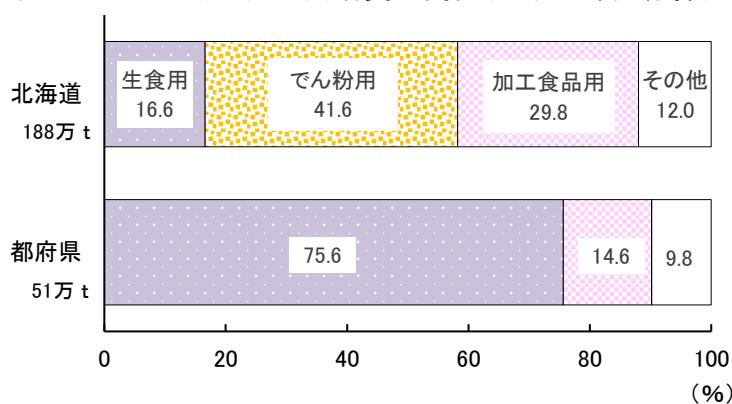


注：表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

ばれいしょの消費について

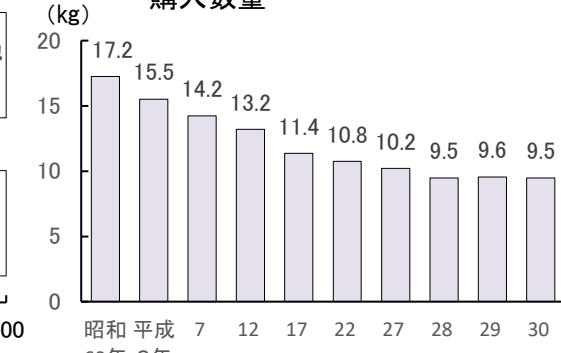
- ばれいしょの用途別消費量割合（平成29年産概算）は、都府県は生食用が75.6%と多いのに対し、北海道はでん粉用が41.6%を占め、次いでポテトチップスなどの加工食品用が29.8%を占めている。
- ばれいしょの全国1世帯当たりの購入数量は、昭和60年の17.2kgに対して平成30年は9.5kgと減少している。

図6 ばれいしょの用途別消費量割合(平成29年産概算)



資料：農林水産省政策統括官『いも・でん粉に関する資料』
注：その他は種子用、飼料用等である。

図7 ばれいしょの全国1世帯当たりの購入数量



資料：総務省「家計調査」

お問合せ

◎本統計調査結果について

農林水産省 北海道農政事務所 統計部 生産流通消費統計課
電話:011-330-8820(直通)

◎農林水産統計全般について

農林水産省 北海道農政事務所 統計部 統計企画課
電話:011-330-8818(直通)